

「子どもたちの夢実現に向けて

私たち大人にできること



栃木県教育委員会事務局学校教育課
児童生徒指導推進室

室長 伊澤 雅幸

一、小学校の年度初めの授業 参観での出来事

娘が小学生の頃、私はPTA役員をしていました。その年度初めの授業参観での出来事ですが、保護者同士の会話の中に「今年は当たり」とか、「今年はずれ」とかいう声が聞こえてきました。当初、どういう意味なのか分かりませんが、話をよくよく聞いてみますと、どうやら自分の子どもの担任の先生のことのようでした。

その当時、一人目の子どもでもあり、私は新米の父親として、娘が「勉強についていけないのだからか」「友達とうまくやっていけないのだからか」などと不安であったことを今でも思い出します。他の親御さんも同じように、担任との関わりなどへの不安からこれらの言葉が出てきたのかもしれないですね。

二、子どもたちを取り巻く様々な環境

「2011年度にアメリカ

の小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今も存在していない職業に就くだろう」。この言葉は、ニューヨーク市立大学大学院センター教授のキャシー・デビッドソン氏が2011年8月、ニューヨークタイムズ紙のインタビューで語ったものです。2011年度小学校入学といえば、日本というところ現在の中学1年生になります。

AI（人工知能）やIoT（モノがインターネットにつながる）の急速な進化などにより、私たちの働き方は大きく変わっていくとの予測がなされています。企業がイノベーションを進めるたびに、業態の変化によって新しい職業が生まれ、既存の専門職と置き換わりつつあります。

65%という数字はともなにも同じようなことになるかは分かりませんが、国際化が進む世界では一つの国で起こった変化が他の国に瞬く間に広

がります。私自身は、雇用の前提となる専門性の変化が常態化し、職業が安定した存在でなくなる可能性はあるのだろうかと考えています。

このような変革の時代であるからこそ、子どもたち一人一人に自分の生き方を社会との関わりの中で考えさせることによつて夢を志に高め、主体的に未来を創造する力を育む必要があります。とりわけ学校においては、校長先生のリーダーシップの下、児童生徒指導を全校体制で推進し、児童生徒一人一人の発達の段階に応じた自己指導能力（自己をありのままに認めること（自己受容）、自己に対する洞察を深めること（自己理解）を基盤に、自らの追求しつつある目標を確立、明確化するとともに、目標達成に向けて主体的に自らの行動を決断、実行する力）を育成することが重要となります。

三、児童生徒指導推進室としての主な取組

（一）学業指導の推進

県教育委員会では、児童生徒一人一人にとつて学校や学級が魅力的な集団であり、そこに、児童生徒が活躍できる場や、友達や先生から認められる場があるといった、居がいのある集団づくりができるよう、学業指導の充実に努めているところではあります。

聞き慣れない言葉かと思いますが、学業指導とは、それぞれの学級を「学びに向かう集団」に高めながら、児童生徒一人一人が自らの力で様々な不応を解消し、意欲的に学習活動に取り組めるよう指導・援助することです。この学業指導が目指す学びに向かう集団とは、互いに高め合える集団であり、いじめの起きにくい集団でもあると考えております。

（二）インターネットトラブ

ルから児童生徒を守るための取組

県教育委員会では、いじめや依存などのインターネットトラブルから児童生徒を守るため、昨年度、教師向け情報モラル指導資料を公立学校全ての教員に配布したところであります。また、ネットトラブル防止には保護者の協力が不可欠であることから、今年度は、保護者向けリーフレット「親子でチェック 安心・安全インターネット」ネットワークトラブルに遭わないために」を作成し、学校を通じて保護者に配布いたしました。このリーフレットは、小学1・2年生用と小学6年生・中学3年生用の2種類を作成し、その中で、平成28年度のとちぎっ子学習状況調査結果から、携帯電話やスマートフォンの使用時間が長いほど平均正答率が

低かったことや、健康面への影響、家庭でのルールづくり、困ったときの相談窓口などを紹介させていただきました。県教育委員会のホームページにも掲載しましたので、ぜひ御覧ください。

四、子どもと向き合う時間

をできるだけつくる、悩んだ時には学校に相談してみる

最後に保護者の皆様方にお願ひがあります。お子さんの前では、学校や先生の悪口をできるだけ言わないでいただきたいと思ひます。

親御さんとして、不安や悩み、時には学校への不満などもあろうかと思ひますが、学級担任が誰かということに一喜一憂するのではなく、お子さんの悩みや不安などをしっかりと受け止めていただくとともに、学校の先生方とできるだけ話をしていたいただければと思ひます。その際、学校の対応を一方的に批判・追究するのではなく、親御さん御自身の不安や悩み、困っていることなどを具体的に伝えてみてはいかがでしょうか。

子どもたちの未来のため、学校と家庭、地域がどのように連携すべきなのか、保護者の皆様とともに、子どもたちの夢実現に向けて取り組みたいと考えたいと思ひます。